

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和6年度 高松市感染症診査協議会
開 催 日 時	令和6年4月12日(金) 13時30分～15時00分
開 催 場 所	高松市保健所 3階 教育研究室
議 題	(1) 就業制限通知及び入院勧告について(報告) (2) 最近の感染症の動向について (3) その他
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	高松市情報公開条例第7条第1号に該当
出 席 委 員	大西委員、森委員、市川委員、藤澤委員、塩見委員、 岸本委員、宮脇委員、山本委員、東條委員、滝口委員、 佐藤委員、中山委員
傍 聴 者	0人
担当課及び 連 絡 先	感染症対策課 感染症予防係 839-2870

会議の経過及び結果

- 1 開会
- 2 保健所長あいさつ
- 3 会議の公開・非公開
個人情報を取り扱うことから非公開
- 4 委員長あいさつ
- 5 委員長により議事進行
議事録署名委員に大西委員と塩見委員指名
- 6 議題
(1) 就業制限通知及び入院勧告について(報告)
事務局) 説明
委 員) 令和5年の腸管出血性大腸菌は例年に比べて多かったのか。
事務局) 例年よりは、若干増えた印象を持っている。7例は同じ施設で発生しており、集団発生といえるかは不明だが、複数発生したということで、件数が増えた印象である。

委員) 新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、飲食業が平常に戻ってきたこともあり、件数が元に戻ってきたということか。

委員) 県では例年の約2倍発生している。その半分以上が食品に携わる施設等での定期検便での発生であり、無症状者の症例が増えている。また、集団で出た場合に急増加している。

(2) 最近の感染症の動向について

事務局) 説明

委員) 梅毒の患者について、職業・住居地に偏りはないか。

事務局) 発生届で職業は必ず聞く項目ではなく、把握している情報だけになるが、偏りがあったという認識はない。

委員) 全国的に増えているのは、おそらくインバウンドが増え、セックスワーカーの人たちが増えてきているからか。県内では高松市が137分の80と多い。性風俗産業に勤務されている人が多いのであれば、その人たちに向けて何か対策をとれるのではないか。

事務局) 女性の届出が増えてきている。性風俗産業に従事歴があるかどうかは、届出で確認できるが、正確に記載されているかどうかは不明。どちらかというところと妊婦健診や他疾患で婦人科系を受診した際に発見されている。パートナーが梅毒と診断され、受診し発見されるものが最近目立っている。一部の性風俗産業を重点的に啓発することも、今後の対策として検討している。

委員) 男性からというよりは、地域に定着してきて、第1段階のインバウンドによる国内へのパターンから、第2段階にきているのか。

委員) 全国的に梅毒が増えてきていることの理由の1つに、梅毒を甘くみているというところがあるのか。原因は全国的にどのように報告され、保健所ではどのように把握されているのか。

事務局) 性風俗関係は警察の管轄なので、細かいことはわからない。実際、感染経路がはっきりしない方が多く、様々な経路がある。梅毒は性感染症と認識していない方もいる。周知啓発が非常に重要だと思っている。

委員) SFTSに関して2月に人から人へ感染があった。主治医が、目の粘膜から感染したということで、医療従事者への周知・報告もあった。

委員) 症例としては、20代の救急外来の医者で、患者は90歳代。最初外来では白血球・血小板が減少しており、SFTSを疑って入院させていたが、医師は、マスクのみで、他は防御していなかった。それが感染原因の1つとなったかもしれない。また、死後処置でカテーテルを抜く等の処置をする際、マスク・手袋・ガウンをつけていたが、アイガードをしていなかった。体液等は飛び散るので、死後処置をするときにはしっかり

と防御することが大切である。

委員) 新型コロナウイルス感染症流行初期、市内の病院で看護師が高齢者のケアにより目からウイルスが侵入した可能性があることから、目のガードを言われるようになった。ウイルスはヒト-ヒト感染し、粘膜からの感染は怖い。

委員) ヒト-ヒト感染は、国内では初めてか。

委員) 初めてである。

事務局) 体液で感染する例として、SFTSに罹患している夫の血の処理をしていた妻がかかり、亡くなった事例がある。

委員) ヒト-ヒト感染はあり得ることとして、感染対策をとることが大切である。

事務局) 行政検査に出す際、疑っている段階から院内での感染対策をとるよう周知していきたい。

委員) 香川県のSFTS死亡例は数年に1回出ているので、対応等を考える必要がある。高病原性鳥インフルエンザのヒト-ヒト感染にも注視したい。今季、インフルエンザが4回流行した原因は何か。

委員) 通常は1月下旬にピークがあり5月ぐらいに下がるが、1以下を切らずに9月に上がるのは、サーベイランス上初めての経験である。理由は、新型コロナウイルス感染症により、インフルエンザウイルス感染症が流行せず、特に子どもたちの抗体・自然免疫がない、いわゆる免疫負債の影響。他にも咽頭結膜熱が夏に流行せず秋から冬にかけて10倍、ヘルパンギーナは18倍流行している。RSウイルスは一般的に秋から冬にかけて流行するものだが、春から夏にかけて流行しており、異例の年だった。

委員) 結核は確実に減ってきており、低蔓延国となっているが、外国出生者と65歳以上の高齢者が問題である。

委員) 新型コロナウイルス感染症の中等症から重症の方に対する、ステロイド治療薬の効果が低いように感じる。

委員) 最近、誤嚥性肺炎・細菌性肺炎を合併している人が多く、高齢者であり、治りが遅い。抗ウイルス薬の反応が悪くなったという印象はない。以前の株より亡くなる人が多いように感じるが、高齢者で合併症により重症化して亡くなっている。

委員) 入院する大半の人は、新型コロナウイルス感染症ワクチンを打っていない。

委員) 亡くなっている人のほとんどが基礎疾患の関与が大きい。血液疾患か癌か老衰か。

委員) ワクチン接種をすることで、1年ぐらいは重症化予防になるが、感染予

防効果は3～4か月で低下する。今後も経過を見る必要がある。

(3) その他

事務局) 説明

委員) 6月に国から新型インフルエンザの行動計画が出た後は、次への備えとしてデジタル化を推進していきたい。